

生活支援体制づくり協議体会議（地域包括支援センター北浜  
担当圏域レベル）開催報告書

1 開催日時	令和 8 年 2 月 20 日（金） 10 時 00 分 ～ 11 時 30 分
2 開催場所	浜松市ふれあい交流センター浜北 2階大会議室
3 参加者	15名（委員8名、事務局3名、関係機関4名）
4 協議の内容	

1. 開会 会長あいさつ

2. 議事

【北浜地区の現状と課題から考える今後の取り組みについて】事務局より振り返り

○第1回（7/18）サロン活動の手引き完成版を共有。これまで居場所づくりをテーマにしてきたが、手引き完成をもって一区切りとした。会議の後半では2つのグループに分かれて、最近聞いた困りごとや気になることについて共有した。

○第2回（10/24）困りごとや気になることについてジャンル分けをし、2つのグループで気になるテーマについて話し合い、発表した。

○第3回（2/20）

前回の話し合いを確認し、次年度以降の取り組みの方向性を検討する。

（以下、前回のグループワーク内容 一部抜粋）

Aグループ テーマ：担い手×居場所 繋がり希薄化と認知症

- ・地域の草刈りに人が集まらない。
- ・家事支援を始め、あらゆる場所での担い手不足。
- ・隠れサロンがもっとあるかもしれない。
- ・良いところとして、子どもとの関わり、お祭りを通じた地域福祉、ラジオ体操が盛ん。

Bグループ テーマ：孤独・孤立高齢者

- ・一人暮らしが増えている（配偶者が亡くなり“シングル通り”がある）
- ・場所があっても行く手段がない。
- ・市営団地やアパートなどに、必要な情報が届いていない。
- ・誰とも話していない人がいる。
- ・老人憩いの家があっても開いておらず使えていない。
- ・地域のなかでの見守りや、いつでも誰でも寄れる場所があるといい。
- ・ボランティアポイントが将来の自分の助けとなるような仕組みがあるといい。

前回までの話し合いを含め、来年度の方向性を決めていきたい。資料を確認しながら、改めて気になるところなどご意見をいただきたい。また、各グループの話し合いでは、「地域とつながっていない」という共通の課題があるように感じられた。

(以下自由意見)

●つながりの希薄化について

- ・昔より近所のことが分からなくなってきた。どんな生活をしているのか、何に困っているのか。
- ・同じ町内であっても気にする人がなくなった。
- ・地域で心配な方がいると、民生委員一人がやるしかない。誰でもどこでも民生委員につなげる役目の人、民生委員に準ずるような人が複数いるといいなと思う。つながっていくための組織建てができるとう良い。
- ・貴布祢4区では貴布祢4区地域福祉会がある。民生委員の下に友愛ボランティアがいて、一人暮らしで訪問を希望する方に月1回訪問する仕組みがある。民生委員を卒業した方や有志の方が入っている。さらにその下に一人暮らしの方を見守る地域見守り隊がいる。元民生委員が残って活動している。ちょっと気になるとう民生委員に連絡がいくようになっている。普段の生活をしているだけだけれど、ちょっと心配であれば民生委員につながる仕組みになっている。
- ・自治会長が集まる機会はある。そこで貴布祢4区のような良い取り組みの報告も共有できたら良い。
- ・「高齢者の孤独を防ぐためのつながりづくり」貴布祢4区のような先進的なものは、私たちが知らないだけで、他の地域にもあるかもしれない。
- ・一人暮らしの見守り隊が良いなと思った。
- ・見守りは新聞配達員、富永新聞店などが心配してくれている。
- ・安否確認など訪問はあるが、ないところもある。
- ・一人暮らし高齢者も「この人には言わないで」などもある。民生委員には言いたくない、知ってもらいたい人、知ってほしくない人もいる。

●個人や世帯の把握について

- ・自治会長をしていたときに、一人暮らし高齢者を旅行に連れていくという企画があった。しかし、民生委員に聞いても個人情報保護のため教えられないとのことで、誘い方が分からない。各自治会で貴布祢4区のような組織を作れたらと思う。
- ・民生委員の実態調査以外のものに親族の連絡先がない。そういうものを自治会と共有できない部分がある。連絡先が出せない難しさがある。調査票を自治会が見れるかとうと難しい。

- ・各自治会で世帯名簿を持っていて、単身や高齢者を拾い出すことはできるか。
- ・世帯名簿も毎年更新するようになった地区もある。生年月日もわかるようなもの。
- ・一人暮らしの家があったが空き家になり、誰もいないときに水が止まらないという困りごとを聞いた。

#### ●認知症予防、早期発見について

- ・認知症の講義は受けているが、ひょっとすると、この方認知症じゃないか？と見分ける方法があるといい。そういう人に対して早めに動けるように、勉強会があると良いなと思う。
- ・認知症サポーター養成講座の中で、認知症になる前の症状の話の聞けると、予防につながり地域づくりにつながると思う。包括では県外の子どもから両親を心配した相談が入るようになってきている。一方で、親族がいても疎遠になっていて支援する人がいない方もいる。そういう方を家事支援の会や民生委員の方が気にかけていただけるので、こちらでも安心できSOSのときに動ける。
- ・以前「認知症じゃないの？」と聞いて、立腹された方もいた。言われた方もカチンとくると思う。周りでどう対策していくか難しいなと思う。
- ・認知症基本法ができ、全ての国民が認知症の理解に努める時代になった。前回のグループワークでも「やっぱり見守りだよな」という意見があった。啓蒙活動のように「(認知症になっても) みんなで気をつけて生活していきたいね」というような意識が浸透されていくと良いなと思う。

#### ●「大きなテーマはつながりをもつこと、そういう認識は地域の方がもつこと」

- ・小学生が地域の希薄化を発表していた。昔は地域のお節介がいた。
- ・つながりは感じているが、カフェを通した、つながりがあると良いなと思う。常に誰かがいるような所があったら良いなと思う。昔のような喫茶店があれば。
- ・フリースペースがあり、高齢者が将棋をしたり、座るところがあるだけでも違う。老人憩の家があっても誰もいない状況。
- ・毎年5月の連休明けに河川の清掃があり1人250円くらい出してお茶とお菓子を出していた。しかし、そういう機会はコロナが終わった後に無くなった。班によっては新年会や忘年会やったとこともあったようだが。友愛訪問についても、民生委員と自治会、老人クラブの会長で協力し友愛訪問もしてきた。以前よりコロナを機に後退していくなと思った。毎回16時になると近所のお年寄りが集まって話をしていたのを見かけたが、2人ほど亡くなると集まりも自然消滅した。お年寄りが亡くなり世代が変わると付き合いも変わる。年に1回集まって行事ができたりするといいなと思う。
- ・シニアクラブで料理クラブを作ったこともあった。男性の方が多く、作った野菜を持

ってきてくれて、みんなで料理して食べた。それを聞いて高齢の女性も来るようになった。現在も月1回実施している。料理が得意でない方も料理クラブに来てだんだん上手くなったりもした。

- ・地域差というものもある。半分アパートと半分戸建てで仲が悪い。子供も戸建てとアパートで仲が悪い。ピンポン押しても出ないこともある。
- ・色々な地域に色々な良い活動がある。普段の生活に取り込んでもらえるように、取り組んでいけると良いと思う。

#### ●今後の方向性について

つながりの希薄化、見守りの必要性などのキーワードが多く聞かれた。

決定事項：来年度テーマ『高齢者の孤立・孤独を防ぐためのつながりづくり』

#### 3. その他

- ・次回日程：年度替わりのため4月以降に開催の案内をする。
- ・委員報酬出席回数に応じて、3/20(金)に振込予定。
- ・高齢者福祉課よりオーラルフレイルの講座について案内。
- ・市社協より防災減災セミナーについて案内。

#### 4. 閉会

#### 5 今後の見通し・ 必要な対応

- ・次回開催日程は、委員変更の可能性もあるため、新年度になってから調整する。
- ・今回決定した方向性をもとに、新年度からは具体的な取り組みについて検討する。